

「三重県 心のノート」活用事例

校種	小学校	学年	6年	内容項目	4－(7)
主題名	先人の努力を知る				
資料名	多くの人々に支えられ、私たちの今がある 木曾三川と治水 「三重県 心のノート 小学校5・6年」(三重県教育委員会)				
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ日本に住む、困っている人を救うという思いを知る。 ・多くの人々のおかげで、今の私たちがあることを知る。 				
展 開	学習活動と主な発問		指導上の要点		
	<p>1 木曾三川と治水の学習をすることを 知る。</p> <p>2 資料の写真を見て、気づいたことを 書く。 (発問)「資料の写真を見て、気づいたこ とを書こう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長島。大きな川が3つある。 ・川が蛇行している。 ・川には橋がかかっている、町がある。 ・長い堤防が続いている。 ・川の中に島がある。 <p>3 気づいたことから、分かったことを プリントに書く。 (発問)「気づいたことから、分かったこ とを書こう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大雨が降ったら水害が起きるかもしれ ない。 ・堤防のおかげで安心して生活ができる。 ・昔はどうだったのだろう。 <p>4 心のノートを読み、多くの人が命を かけて治水工事をしたことを知る。 (発問)「資料を読んで、分かったことを 書こう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薩摩藩の人が命をかけてつくった。 <p>5 分かったことを班で話し合う。 (発問)「分かったことを班で話し合い、ま とめを書こう。」</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・木曾三川と治水学習から、学習のねらい を知らせる。 ・「木曾三川の河口」の写真を見させ、気づ いたことをプリントに書かせる。 ・三つの大河が蛇行しながら合流してお り、近くには町が集中していることを押 さえる。 ・堤防があることを押さえる。 ・大雨や台風が来たらどうなるか。 ・「三重県 心のノート」を読み、堤防が できた歴史を知る。 ・木曾三川の治水工事は、地元の人でなく 薩摩藩の人が行ったことを押さえる。 ・薩摩藩家老の平田靱負の「同じ日本に住 む、困っている人を救おう」という思い を知る。 ・困っている人のために働こうという思 いを持たせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・分かったことをもとに、班で話し合いを させる。 ・相談したことを、ホワイトボードに書か せ発表させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・感想文を書かせる。 		
他の教 育活動 との関 連	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会や各委員会を中心とした学校行事の運営を行い、全校児童の活動に取り組んでいる。 ・高齢者施設「みどりの丘」を訪問して、お年寄りの方との交流を深めている。 ・ペットボトルキャップ集めを通して、赤十字の活動に参加している。 				

	<ul style="list-style-type: none">・全校児童で地域を周り、清掃活動を行っている。
成果と課題	<ul style="list-style-type: none">・長島は輪中の郷として全国に知られているが、そこが薩摩藩の人たちをはじめとした、多くの人々が命がけの治水工事で作られたことはあまり知られていない。地域学習だけでなく、多くの人々のおかげで今の暮らしがあることを知ることができた。・子どもたちの感想には、ねらいにせまることのできたものが多かった。・「川が3つに分かれて不思議だ。」「橋があるので便利だ。」という、はじめに気づいたことから多くの人の支えがあったことにつながっていない感想もあった。「気づきから → 思い」へとつなげて、心豊かな感性を持たせていきたい。

木曾三川と治水の感想

木曾三川と治水の学習をしての感想を書こう。

今の木曾三川が「あるのは、さつまはんの人達と、オランダ人技師ヨハネス・デレレーケが、工事をしてくれたことを矢口、さつまはんの人達・オランダ人技師ヨハネス・デレレーケらは、「ありがとうございませう」と言っていたです。
また、さつまの人が「同じ日本人のためにやる。」と言ったのが、心に打れました。ぼくも、だれか困っている人がいたら、「同じ人間のためにやる。」と思いました。

木曾三川と治水の感想

木曾三川と治水の学習をしての感想を書こう。

薩摩藩の人たちが、工事を手伝ってくれたので、私たちは、今の場でくらしを続けていくことにしました。思っていました。薩摩藩の家老の方が、「同じ日本に住んでいるから、同じ日本人だから助けて」と言ってくれたので、薩摩藩の人々（約千名）が、立ち上がり、建てたので、終つたら、の方が、何も言わず、ただ、終つたら、木曾三川（木曾川、いづり、長良川）が、三つほど、手を取って、たまたま、続けた。大変だっと思つた。薩摩（今のわかさぎ）から来た、多くのきり性も、たまたまの、か、分かつているので、おどろかされた。私も、身近な所から、少しずつ、手伝い、周りの人が、即かることを、たまたま、生かした。そのためには、ま、周りを、よく見ることを、できる方にならなければ、と思つた。

木曾三川と治水の感想

木曾三川と治水の学習をしての感想を書こう。

今日の授業を終えて感想は、
木曾三川の治水工事がなくなってから大雨が
降るたびに水害等が起きて多くの人がなくな
っていたけど工事をしたおかげで水害が
ほとんどなくなりましたのですごいと思いま
でも、工事の中心となったさつま藩の
家老 は工事が終わった後にたくま
のお金を使って殿様にめいわくをかけたとし
てせっぽくをしました。ほくはそんな家老
が自分のことじゃないのに命をかけて工事を
したのがとても、とてもすごいと思いました。
ほくも自分のことこれに困っている人を見
たら進んで助けあげられるような人にな
りたいです。そのために貸付いた事から1つ
1つやっていきたいです。

木曾三川と治水の感想

木曾三川と治水の学習をしての感想を書こう。

薩摩藩 (今の鹿児島県) が自分の藩が苦しい時
にも関わらず、治水工事をやっていて、スゴイと思
った。薩摩藩が工事をすると、ほかの藩も手伝
いにきた。一つの藩がやると、ほかも多数の
藩が手伝いにきてくれた。水害で無くなった
多くの人々も、減少した。
薩摩藩の行動が多くの命を救ったと
思ふととても感動した。
しかし、それは身近な所からきているので
はないのではないか。
例えば、勉強で分らない所を、一人の
人が教える。それを見た人が、一人、また
一人と教えると言う事だ。身近な所から
人助けが出来るので、困っている人を
見かけた時、助けたい。

